

昭和45年度 和歌山県文化賞

むら い まさ なり
村 井 正 誠

住 所：東京都世田谷区

出 身 地：和歌山県新宮市

生 年：明治38年

化会館のステンドグラスをデザインされた。

◎業績及び経歴

和歌山市、田辺市の小学校を経て新宮第一尋常小学校を大正6年に卒業。同11年新宮中学校を卒業して、文化学院に入学。昭和3年同校を卒業後ただちにフランスに渡り、5年間研鑽を積まれた。

文化学院当時より石井柏亭、有馬生馬に師事してもっぱら洋画の研究に没頭精励し、更に滞仏中の研究を十二分に取り入れてわが国抽象派の嚆矢ともいうべき新画風を樹立された。

昭和34年の作品「顔」が文部省に優秀美術品として買い上げられ、しばしば地方展示が行なわれているのははじめ、昭和37年に「黒い線」が現代日本美術展で最優秀賞、版画の「風」も昭和37年第3回東京国際ビエンナーレ展で文部大臣賞をそれぞれ受けたほか代表作品としては、昭和44年の「居ならぶ人々」、同45年の「座る人」などが著名である。

また帰朝後、新時代洋画展、自由美術家協会、戦後はモダンアート協会をそれぞれ主宰。

昭和41年以来、日本美術家連盟理事長を2期、現在も理事として活躍されているほか、武蔵野美術大学および母校文化学院の教授、更には理事として、研究と同時に後進の指導育成に尽力されている。その他、乞われて、多くの県の県展の審査にも当たられるなど幅広く活動されている。

昭和45年7月には、芸術運動を通し、その理念の確立と文化の向上につくされた功績をもって、新宮市名誉市民の称号を贈られた。昭和46年本県で開催される第26回国民体育大会の参加章・記念章のデザインおよび本年11月完成の和歌山県民文